



文化財保護センターだより

第21号

平成 10年 3月 1日

財団法人 岐阜県文化財保護センター

〒500-8708 岐阜県岐阜市司町1(岐阜総合庁舎内)

TEL058-264-1111(代)
FAX058-264-0343

●もくじ

表紙	速報展「土に刻まれた古代・中世」……1	まとめ	平成9年度岐阜県内発掘調査……6,7
調査	上ヶ平・野上遺跡発掘調査……2	声・記録	整理所紹介 センター日誌
トピックス	野笹遺跡の土偶・土版……3	あとがき	……8
行事	速報展「米づくり・モノづくりから」……4		

土に刻まれた古代・中世

— 速報展開催 —



米づくり・モノづくりをとおして見る古代・中世

平地における米づくりの水田、丘陵部の焼きものづくりの窯。ともに現在でも岐阜県を代表する産業であり、いにしえからこの地域の人々の暮らしと深く関わってきたものです。

この食料や道具を生産した遺跡の調査例が、近年多くなってきました。そこで、平成9年度の速報展として1月14日から2月1日まで岐阜県博物館において、水田跡と窯跡から出土した遺物約200点を展示し、多くの方にご覧いただきました。



発掘調査状況 発掘調査の追い込み進む

当センターでは本年度、地元関係諸機関や多数の方々のご協力をいただき、県内13市町村13遺跡で発掘調査を実施しています。このうち2遺跡の概要についてお知らせします。

■上ヶ平遺跡（益田郡下呂町）



上ヶ平の全景

「下呂合掌村」から坂道を登りつめた下呂観光会館周辺は上ヶ平と呼ばれ、江戸時代末から田畑が開かれました。日あたりの良いゆるやかな斜面には水田や畑が広がっています。

昨年度の試掘調査などから、この上ヶ平一帯に石器の材料である下呂石の破片が多量に散布するなど、縄文時代を中心とする遺跡が存在する可能性が高いと考えられていました。

平成9年10月末から始まった今回の調査で、これまでに1万点以上の下呂石の破片や石器類が出土しています。また、「沢式土器」と呼ばれている縄文時代早期の土器の破片が出土しています。この土器は粘土に黒鉛を混ぜて作られているため灰褐色をしています。その他に縄文時代早期に特徴的な、焼けた石を集めた屋外炉と考えられる遺構も見つかりました。

さらに、9世紀代のもと思われるかまどのある住居跡1軒も見つかっています。この住居跡の中にはたくさんの炭となった木材が散乱していました。火災にあったか、この住居を使わなくなったときに意図的に燃やした可能性が考えられます。また、この住居跡に関連すると思われる灰釉陶器や須恵器の破片なども出土しています。

上ヶ平遺跡は下呂石の産出地「湯ヶ峰」から直線距離で2.5kmのところであり、当遺跡で出土する膨大な量の下呂石の破片とその産出地との関連が興味深い遺跡です。



上ヶ平遺跡の発掘調査の様子

■野上遺跡（不破郡関ヶ原町）

この遺跡は、不破郡関ヶ原町にあり、相川が流れた河岸段丘の上にあります。西から吹く風の通り道になっていて気候は福井と美濃地方の中間のようなところです。関ヶ原バイパス工事に伴って調査をしています。

今までの調査で中世（約800年～600年前）の人々が活動した跡として、柱穴、溝、道路などが見つかりました。

また、近世（約400年前）につくられた中山道という道の脇に沿って築かれたといわれている土塁の跡も調査しました。土塁は石を多く含み、付近を整地したときの土を約80～100cmに積み上げてつくっています。調査区よりも西の旧中山道沿いには、現在でも土塁状の高まりが見られ背の高い松の木が数本残っています。



野上遺跡東地区の発掘調査の様子

野上遺跡の中世の遺構は、溝によって囲まれているようです。溝の幅は約150cmあります。中の土に残っていた花粉の化石を調べてみると、溝跡の周辺には栗、アブラナの仲間、ソバを栽培していた可能性が考えられました。ここは開けた、乾燥したところだったようです。

この溝からは、青磁・白磁の小さい破片も出ています。残念ながら遺跡の中心になるような建物跡は、今年度の調査範囲内では見つかりませんでした。また溝に平行して砂利を敷きつめてつくった幅3.3mの道路跡ではないかと思われる遺構も見つかっています。

出土した遺物は約1,500点ほどで土師器皿、中世・近世の陶磁器類、寛永通寶数点などがあります。

(注1) 沢式土器：縄文時代早期の押型土器の一型式。岐阜県吉城郡古川町沢遺跡で最初に発見された。
 (注2) 湯ヶ峰：下呂市街地の南東に位置する標高1,068mの山。その山麓直下に、石器材料の下呂石が地表にあらわれている所がある。各遺跡で出土する下呂石は、ここから運ばれたと考えられている。

縄文人の願い事？

— 野笹から出土した土偶と土版 —

野笹遺跡は、美濃加茂市野笹町にある縄文時代中期から現代に至るまでの約4,500年間にわたる人々の活動の跡が残された遺跡です。

この遺跡から土偶や土版という遺物が出土しています。

◆頭部だけ出土した土偶

粘土細工の素焼きの塑像（人形）を土偶といいます。土偶は完全な形のままで出土することはまずありません。呪いや祭りのために故意に破壊されたり、何らかの特別な理由で、バラバラに捨てられたりしたのではないかとわれています。

野笹遺跡から出土した土偶も頭の部分だけのものが3点出土しています。他にも土偶の一部と考えられるものが出土していますが、整理作業が進めばもっと土偶の破片がでてくるかもしれません。

3点の土偶とも眉毛から鼻にかけては、粘土をひも状にしたものを張り付けて立体的に盛り上げてつくっています。

①の土偶は、割れ面や側面の形から仮面（土面）をかぶった人を表現しているものと思われます。この土偶の顔にそっくりな土面は、長野県の下中原遺跡から出土しています。

②・③の土偶は、顔に入れ墨がしてあることがわかります。入れ墨のある土偶が多く見られることから、縄文時代の人々は顔に入れ墨をしていることが多かったのではないかと考えられています。

これらの土偶は、縄文時代後期～晩期（約4,000～2,600年前）にかけてつくられたものと考えられます。

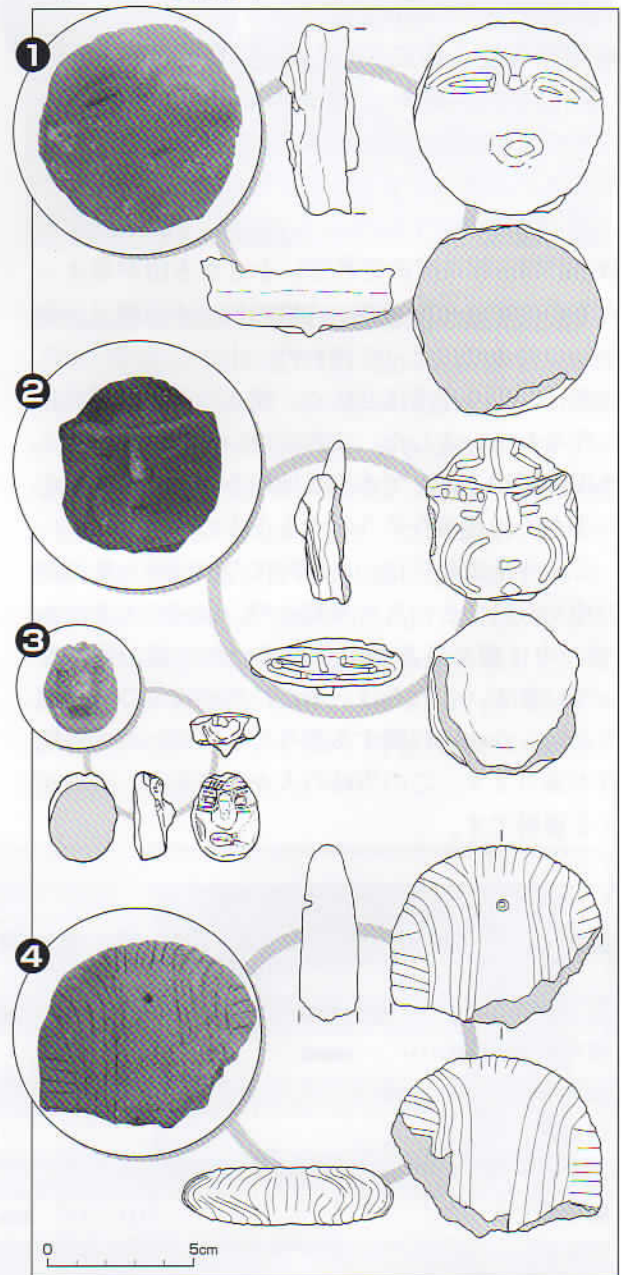
土版は、関東、東北地方といった東日本の縄文時代の遺跡からよく出土する遺物です。岐阜県では、美濃加茂市よりも西からはほとんど出土していません。

◆縄文時代晩期に特有な遺物—土版—

粘土をこねて、一定の大きさと形にした板状のものを土版といいます。土版の用途については、現在のところ守り札のようなものという説が最も一般的です。

④の土版は、河川跡から出土しました。割れていて半分しかありませんが、全体の形は、長径が10cm、短径が7cmほどの楕円形であったと思われます。両面に独特な模様が細い線で刻まれ、片面にへそのような浅いくぼみがつけられています。

土版は縄文時代の晩期（今から約3,000～2,600年前）に関東地方で多くみられる遺物です。岐阜県では中津川市の久須田遺跡で出土しているほかは、ほとんど知られていません。



土偶と土版の写真と実測図

米づくり・モノづくりから語る社会 ふるさとに眠る考古の謎に千を越える人が!

■平成9年度 速報展開催

当センターでも毎年多くの遺跡が調査される中で、人々が生活した場に加えて、ものを作り出した場（生産遺跡）が見つかることが多くなってきました。そこからは、当時の人々の願いや工夫、そして社会の様子などがうかがえることがしばしばです。

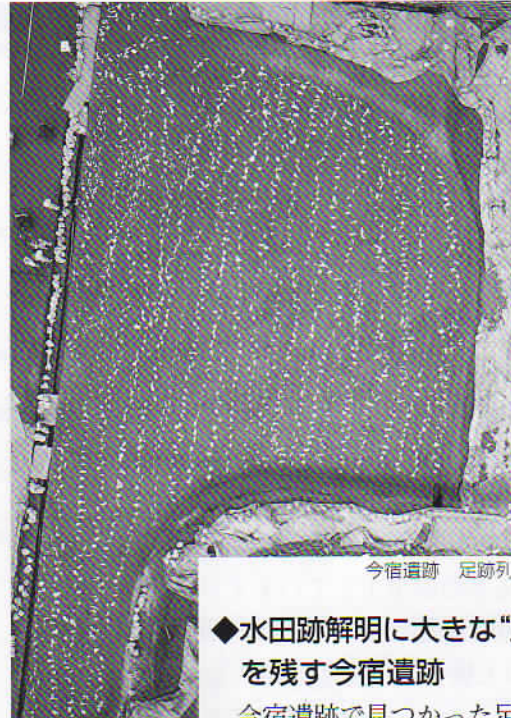
今回は、この生産遺跡の中から米づくり関連の5遺跡と窯跡関連の2遺跡より、200点余りの遺物と遺構について紹介しました。

◆自然をたくみに生かした古代の水田

弥生時代から始まった県内の米づくりの歩みは、自然を生かしながらより多くの生産をめざそうとする人々の願いと工夫の歴史でもありました。

深沼遺跡の弥生時代の水田跡は、2m×2mまたは2m×4m程に区画された、小さな水田が集まったものです。今宿遺跡の古墳時代の水田跡は、大小二つのあぜによって囲われ、小さなあぜによる区画は、平らな所ほど広く、傾きのある所ほど狭く作られていました。これらはいずれも、細かく水田を区切ることで水平な地形を作りだし、水をくまなく行き渡らそうとする工夫の現れです。

この今宿遺跡では、古墳時代の水田跡と集落跡の境から出てきた鳥形木製品や、水田の大きなあぜの中に埋め込み納められていた土器が見つかっています。これらは、豊かに稲が実ることを願うといった水田に関する祭りごとに使われた可能性があります。この当時の人々の考えが、うかがえる資料です。



今宿遺跡 足跡列

◆水田跡解明に大きな“足跡”を残す今宿遺跡

今宿遺跡で見つかった足跡は、古墳時代の初めに洪水で埋もれた水田を、再び利用するための作業をした時のものと考えられます。古代の人々の足跡の発見例は各地にありますが、数千歩もの足跡がしかも規則的に列をなしている例はとてもまれであり、当時の農作業を考える貴重な資料となります。

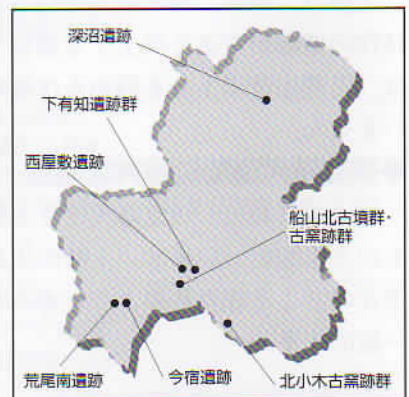
◆多くの遺物をかかえて眠っていた窯

船山北古窯跡群は厚く土におおわれており、多くの遺物が出土しただけでなく、製品を焼く窯や売り物にならない不良品を捨てた灰原が良好な状態で残されていました。そのため、窯のし

時代 遺跡	古代				中世	近世	近現代	
	弥生	古墳	飛鳥	奈良	平安	鎌倉	室町	江戸
今宿		■				■	■	■
荒尾南	■	■						
深沼	■							
西屋敷					■	■	■	■
下有知	■	■	■	■	■	■	■	■
船山北			■	■	■			
北小木						■		

遺跡年表

■ 中心となる時期 ■■■ 遺物の出ている時期



速報展で紹介された遺跡場所

くみや当時の窯の使い方などがよくわかります。

また、3号窯では「建久五年(1194)「祐向寺」としてのされた刻銘陶器(盤)が見つかり、遺物の年代と納め先を正確に知る



3号窯製品集合写真

ことができる貴重な資料となりました。この3号窯では碗・皿といった製品より、鉢や瓶、さらに仏具や硯などが目につきます。特に仏具や硯などは使う人が限られることから、3号窯は寺院などの特別な納め先を持っていたことが考えられます。前述の刻銘陶器は、祐向寺に奉納する「絵馬」的なものと考えられ、当時この窯で製品を焼いていた人々の願いをうかがわせます。

◆水辺の祭りごとが行われた砂行遺跡(下有知遺跡群)

砂行遺跡では、古墳や奈良時代の火葬墓に加え、大きな溝や集落跡が見つかっています。この中で大溝は、幅が最大で12m深さ約1.3mで北から南に流れ、今でも最上流部からは豊富な水が湧いています。

ここからは、県内で最も古い時代の須恵器や

鎌形や剣形などの木製品、さらに有孔円盤とよばれる石製品が見つかっており、古墳時代に水の神に対する祭りごとが行われたと考えられます。同じような古墳時代の水に関する祭りごとの例は東海地方では三重県の城之越遺跡、六大A遺跡などにも見られます。



砂行遺跡の大溝と出土した鎌形木製品

◆海とのつながりを思わせる船の絵画土器

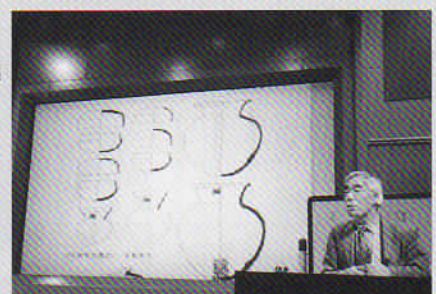
荒尾南遺跡出土の壺には、他に例を見ない大型船が描かれています。その絵が西濃地方の大垣市という地域から出たことが、大きな意味を持つと八賀先生は言われます。それは、当時のこの地域の地形を考える材料にもなり、この地域の勢力とさらに南の海岸沿いにいて実際に船を操っていた勢力とのつながりを想像させ、さらに後になって西濃南部に県内最古の古墳を生み出す勢力とつながっていく可能性を秘めています。現在の段階では明確なことは不明ですが、今後の資料の解明に期待がもてる話です。

■記念講演会に150名の参加者

1月18日(日)、「最近の県内発掘事情にみる地域のすがた」と題して三重大学八賀晋教授に、記念講演を行っていただきました。あいにくの天候にもかかわらず、150名余りの方の参加をいただきました。

八賀先生からは、講演直前に公表され「卑弥呼の鏡出土か?」と話題を集めた黒塚古墳(奈良県天理市)を皮切りに、三重県や各務原市な

どの遺跡との比較を織り交ぜながら、速報展に関連した遺跡の持つ重要性や当時の社会の様子について、わかりやすく具体的なお話をしていただきました。



平成9年度 岐阜県内埋蔵文化財発掘調査

まとめ

平成10年1月31日現在

遺跡名(所在地)	調査主体	主な時代	主な遺構・遺物など
城之内遺跡 (岐阜市長良八反田)	岐阜市教育委員会	古墳時代～ 中世	竪穴住居跡・土壇 須恵器・土師器
城之内遺跡 (岐阜市長良西後町ほか)	(財)岐阜市教育文化振興事業団	中世～戦国 時代	区画溝・火葬墓 墨書かわらけ・染付皿・山茶碗
岐阜城千畳敷遺跡 (岐阜市大宮町)	(財)岐阜市教育文化振興事業団	古代～近世	石垣・井戸・溝・土壇 刀・陶器・染付・白磁・青磁・かわらけ・土師器・山茶碗
熊田山北古墳群 (各務原市蘇原東島町)	各務原市教育委員会	古墳時代	古墳(円墳4基) 須恵器・土師器・ガラス小玉・素環頭大刀・鉄鎌
美濃国分寺跡 (大垣市青野町)	大垣市教育委員会	奈良～鎌倉 時代	幅竿遺構・道状遺構・掘立柱建物跡 土壇・瓦・緑釉陶器・灰釉陶器・鳥紐蓋
昼飯大塚古墳 (大垣市昼飯町)	大垣市教育委員会	古墳時代	葺石・埴輪列 玉類・土師器
松遺跡 (大垣市松町)	大垣市教育委員会	平安時代～ 近世	畝状遺構・掘立柱建物跡・井戸 土師器・灰釉陶器・山茶碗・鋤・木器
羽沢貝塚 (南濃町羽沢)	南濃町教育委員会	縄文時代	縄文土器・石器・骨格器・自然遺物・縄文人骨・埋葬穴
象鼻山1号墳 (養老町橋爪)	養老町教育委員会	古墳時代	古墳(埋葬施設) 鏡・琴柱形石製品・鉄刀・鉄剣
美濃国府跡 (垂井町府中)	垂井町教育委員会	奈良～平安 時代	柵・溝 須恵器・土師器・灰釉陶器・緑釉陶器・山茶碗・青磁・布目瓦
野上遺跡 (関ヶ原町野上)	(財)岐阜県文化財保護センター	中世～近世	道状遺構・溝・土坑 須恵器・土師器・中近世陶磁器・刀子・古銭
カバ古墳群 (大野町野)	大野町教育委員会	古墳時代	古墳(横穴式石室) 須恵器・土師器・金環・鉄釘
願成寺西墳之越51号墳 (池田町願成寺)	池田町教育委員会	古墳時代	古墳(横穴式石室)・木棺痕跡 須恵器・土師器・鉄釘
市場遺跡 (池田町片山)	(財)岐阜県文化財保護センター	縄文時代	土坑 縄文土器・石器
岩井谷遺跡 (春日村美束)	(財)岐阜県文化財保護センター	縄文時代	竪穴住居跡・立石を伴う遺構・集石遺構・土坑 縄文土器・土偶・石器(石棒)
塚奥山遺跡 (藤橋村塚)	(財)岐阜県文化財保護センター	縄文時代	竪穴住居跡・埋設土器・配石遺構・土坑 縄文土器・石器(石棒・垂飾り・小玉)
弥勒寺東遺跡 (関市池尻)	関市教育委員会	飛鳥～平安 時代	郡庁院跡・門・竪穴住居跡・掘立柱塀跡 須恵器・土師器・灰釉陶器・山茶碗・炭化米
弥勒寺跡 (関市池尻)	関市教育委員会	白鳳時代	講堂礎石 瓦・須恵器・土師器・灰釉陶器・緑釉陶器・陶塔・螺髪・山茶碗
砂行遺跡 (関市下有知)	(財)岐阜県文化財保護センター	弥生～奈良 時代	古墳(造り出し付円墳)・祭祀遺構・火葬墓・竪穴住居跡 弥生土器・須恵器・土師器・木製品・石器
渡来川北遺跡 (美濃市大矢田)	美濃市教育委員会	縄文～奈良 時代	竪穴住居跡・掘立柱建物跡・土壇
高見遺跡 (洞戸村奥洞戸)	(財)岐阜県文化財保護センター	縄文時代	竪穴住居跡・集石遺構・土坑・流路 縄文土器・山茶碗・石器
尾崎遺跡 (美濃加茂市蜂屋町)	美濃加茂市教育委員会	古墳時代～ 中世	竪穴住居跡 須恵器・土師器
木ノ下遺跡 (美濃加茂市山之上町)	美濃加茂市教育委員会	古墳時代～ 中世	竪穴住居跡・石組遺構・井戸 須恵器・土師器・山茶碗
野笹遺跡 (美濃加茂市野笹町)	(財)岐阜県文化財保護センター	縄文～古墳 中世～近世	竪穴住居跡・掘立柱建物跡・大溝・暗渠・敷石遺構・柵列 縄文土器・弥生土器・須恵器・土師器・山茶碗・石器
野中古墳 (可児市中恵土)	可児市教育委員会	古墳時代	葺石
中川寺1号古墳 (可児市広見)	可児市教育委員会	古墳時代	古墳(横穴式石室) 須恵器・管玉・ガラス小玉
長塚古墳 (可児市中恵土)	可児市教育委員会	古墳時代	粘土かか・木棺直葬主体部 鏡・ガラス玉・管玉・石剣

遺跡名(所在地)	調査主体	主な時代	主な遺構・遺物など
二野東段遺跡 (可児市二野)	可児市教育委員会	古墳時代～ 中世	竪穴住居跡・溝 土師器・山茶碗
東畑古墳 (可児市川合)	可児市教育委員会	古墳時代	古墳(横穴式石室) 近世陶器
東山浦遺跡 (富加町滝田)	富加町教育委員会	弥生～古墳 時代	溝・土坑 弥生土器・須恵器・石器
顔戸南遺跡 (御嵩町顔戸)	(財)岐阜県文化財保護センター	古墳時代～ 中世	竪穴住居跡・掘立柱建物跡・堰・溝 須恵器・土師器・山茶碗・木製品
北小木古窯跡群 (多治見市北小木町)	多治見市教育委員会	中世	窯窯 山茶碗
大ザヤ1～3号窯 (多治見市高田町)	多治見市教育委員会	近世～近代	連房式登り窯・物原 徳利・片口
高田古窯跡群 (多治見市高田町)	(財)多治見市文化振興事業団	中世	窯窯・作業場跡 山茶碗
酒井ヶ峯1・2号窯 (多治見市市之倉町)	(財)多治見市文化振興事業団	近世	磁器・山茶碗
松阪3～6号窯 (多治見市松阪町)	(財)多治見市文化振興事業団	中世	窯窯 山茶碗
大藪西山1号・2号窯 (多治見市大藪町)	(財)多治見市文化振興事業団	平安～鎌倉 時代	窯窯 山茶碗
正家庵寺跡・寺平遺跡 (恵那市長島町)	恵那市教育委員会	奈良～平安 時代	金堂基壇・軒廊・築地 奈良三彩・須恵器・灰釉陶器・鉄釘
定林寺西洞古窯跡 (土岐市泉町)	(財)土岐市埋蔵文化財センター	江戸時代	土置場・作業場・物原 陶器(灰釉・鉄釉・織部)
元屋敷陶器窯跡 (土岐市泉町)	(財)土岐市埋蔵文化財センター	安土桃山～ 江戸時代	作業場・通路 陶器(黄瀬戸・志野・織部)
妻木城土屋敷跡 (土岐市妻木町)	(財)土岐市埋蔵文化財センター	室町～江戸 時代	石垣・石段 土師器・陶器・磁器・瓦
三枝城跡 (高山市上切町)	高山市教育委員会	中世	掘切・一～五の郭・各郭の曲輪・平地
三仏寺廃寺 (高山市三福寺町)	高山市教育委員会	白鳳時代	瓦(軒丸・軒平・丸・平)
飛騨国分寺 (高山市総和町)	高山市教育委員会	奈良時代	版築の一部・旧境内面
沖田遺跡 (萩原町西上田)	(財)岐阜県文化財保護センター	縄文時代・ 近世	竪穴住居跡・掘立柱建物跡・土坑 縄文土器・中近世陶磁器・石器
湯屋遺跡 (小坂町湯屋)	(財)岐阜県文化財保護センター	縄文時代・ 近世	配石遺構・土坑 縄文土器・近世陶磁器・石器
上ヶ平遺跡 (下呂町森)	(財)岐阜県文化財保護センター	縄文・平安 時代	竪穴住居跡・竈・溝・集石遺構 縄文土器・須恵器・灰釉陶器・石器・下呂石剥片
阿多粕遺跡 (久々野町阿多粕道下)	(財)岐阜県文化財保護センター	縄文時代	縄文土器・石器
直道遺跡 (国府町三日町)	国府町教育委員会	古墳時代	竪穴住居跡・掘立柱建物跡・溝 須恵器・土師器・祭祀用具・砥石
塚田遺跡 (国府町木曾垣内)	国府町教育委員会	縄文・古墳 時代	竪穴住居跡・掘立柱建物跡・溝 縄文土器・須恵器・土師器・木製品
大塚古墳 (国府町三日町)	国府町教育委員会	縄文時代・ 中世	溝・貯蔵穴 縄文土器・倒木
江馬氏城館跡下館跡 (神岡町殿)	神岡町教育委員会	中世	掘跡・掘立柱建物跡・炉跡・土坑・溝 土師器・瀬戸美濃・珠洲・青磁・白磁・鉄釘・鋳滓・石鍋
杖石岩陰遺跡 (上宝村長倉)	麻生優	縄文時代	縄文土器・石器

※試掘調査を除く

整理所紹介 2

現場にもある整理所

□下有知現場整理所 (関市)

関市役所から北に約2km、下有知字小和田に当整理所はあります。昨年度の小和田遺跡発掘調査事務所を今年度から新しく現場整理所としたものです。現在調査員1名と作業員3名の合計4名で、小和田遺跡の整理作業を行っています。



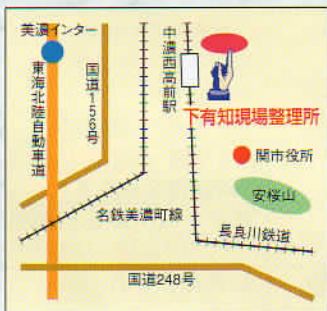
下有知現場整理所の全景

山裾に位置するだけに、周りを緑に囲まれ、恵まれた環境の中で作業を進めています。さすがに冬場は、朝晩の冷込みも厳しいものがあります。



整理作業の様子

整理作業も大詰に近づき、調査員以下力を合わせ、実測図のトレースや図版のレイアウトなどに、毎日頑張っています。



センター日誌

- 9.22 富山大宇野教授、野上遺跡視察
- 24 埼玉県立理蔵文化財センター谷井氏ほか、飛騨出張所視察
- 25 愛知女短大齋藤講師、美濃加茂市教委可見氏、顔戸南遺跡視察
- 29 小坂町教委二村氏、湯屋遺跡視察
- 10.1 高見遺跡調査、柿田・鹿塩試掘開始
- 5 本巣町「徳山展」開始(～11.2) 本巣町歴史民俗資料館(2,000名)
- 11 現地説明会 湯屋遺跡(73名)
- 15 文化庁坂井氏・愛知県佐織町教委、下有知遺跡群視察
三重大八賀教授、下有知遺跡群発掘指導
愛知学院大麻生教授、塚奥山遺跡・穂積整理所指導
- 17 湯屋遺跡、発掘作業終了
- 20 上ヶ平遺跡調査開始
- 23 中部北陸ブロック会議開催(～24) 岐阜
- 30 東京大学佐藤教授・岐阜大早川助教授、下有知遺跡群指導
- 31 富山大宇野教授、顔戸南遺跡・野笹遺跡調査指導
- 11.15 現地説明会 野笹遺跡(130名)
- 27 塚奥山遺跡調査納め式
- 12.5 高見遺跡発掘調査終了
- 9 名古屋大渡辺教授上原遺跡指導
- 20 現地説明会 顔戸南遺跡(246名)
- 1.7 速報展「土に刻まれた古代・中世」開始(～2.1)県博物館
- 14 関市長後藤氏、下有知遺跡群視察
- 18 記念講演会 県博物館(150名)
- 24 現地説明会 砂行遺跡(176名)

□美濃加茂整理所 (美濃加茂市)

木曾川と飛騨川が合流する内側部分に所在する牧野小山遺跡は東海地域において有数な古代の集落遺跡です。



木々に囲まれた整理所

当整理所はこの遺跡の中にあります。もと営林署の建物を作業棟・倉庫として利用し調査員2名、補助調査員1名、作業員7名で毎日頑張っています。

今年度は、「牧野小山遺跡」と「高見遺跡(洞戸村)」の報告書の作成が主な仕事です。疲れた時ふと見



整理作業の様子

上げると、眼前に広大な遺跡が広がり、そのまま時を飛び越えてしまいそうな感じのする静かな所です。



あとがき

1月14日から2月1日まで岐阜県博物館にて速報展を開催しました。会期中、千人を超える方々にお越しいたごき、改めて関心の高さを感じました。県教育委員会、県博物館をはじめご協力をいただきました皆様にお礼申し上げます。

今年度の県内13市町村での発掘調査、また7整理所での整理作業を無事終えようとしています。これもひとえに関係諸機関の皆様のご多大なご支援と五百人にのぼる補助調査員、発掘作業員、整理作業員の方々のおかげです。

山の木々が芽吹く頃、新たな調査が始まります。